【第十回】

やっとできたよ、渾身のツインカムチョッパー製作記。

～カスタムをアナタがオーダーするのに役立つあれこれ編～

先月はAKBふぉーてぃリカちゃんにジャックされたこのコーナーでありますが、決してネタがなかったワケではありません。今月からはついに出来ちゃったツインカムチョッパーの製作記がはじまりますよっ。まあ、ただ製作過程を追いかけても面白くもなんともないので、アナタがオーダーする時のために！もういちど言いましょう、オーダーするときのために！！役立つ体験談も交えてお伝えしたいと思いマス。

よく、カスタム屋さんはどうやって選べば良いですかぁ？

7W x 13L = 91(92)

どんなパーツを使いたいかなど、打ち合わせは入念に。見た目だけで選ぶオーナーに対して、性能や品質など経験に基づくアドバイスがもらえます

21W x 4L = 84(66)

と聞かれます。ハーレーのカスタムだと大きく、エンジンが得意なショップのカスタムと、板金が得意なショップのカスタムに分かれます。どっちがいいかは、はっきり言ってどっちが欲しいかであります。見た目はカッコいい旧車チョッパーでもなかなかエンジンがかからないとか、調子悪そうだなぁっていうの、よくあります。見分け方はショップに組みかけのエンジンがあるかどうか、工具が揃っているか、などで一目瞭然ですが、お店のバイク達が調子よく走っているか？HPやショップお訪れた時によく観察しておくといいですね。ワイルドだろぉで済ませているモノは、いざ自分のモノになると苦労します。ツインカムの場合は修理より、チューニングができることがアドバンテージと言えるかもしれません。セレクテッドの場合、シャシーダイナモまで揃っていますからその辺も安心。何度も走りに誘ってもらっていたので、お客さんたちのバリバリな走りも目に焼き付いていますから何の不安もありません。

さてさて、まずはどんなカスタムにしたいのか？をショップと話し合うことから始まります。今回はワタシがツインカムを欲しがっているのを、セレクテッドの西岡さんが理解してくれていたので、パワーユニットがまず有りで、これで作ってみませんか？というお誘いでしたが、さてその先どうする？というのが重要です。

自分の理想を伝えるわけですが、このパーツを使いたいとか、ベース車両を前に細かく話し合っていくと丸一日あっという間に過ぎちゃいます。そんな会話の中で、オーダーする側としては、常に気になるのが予算。これは高そうだから言わない方がいいかな？とか勝手に想像しても意味がありません。とりあえず全部伝えればショップ側もおおよその見当が付きますから、それにはこのぐらい予算が必要です、とかアドバイスがもらえます。今回もリアを太くするかしないかで、値段がかなり変わります、とそれぞれの仕様で見積もりを用意してくれました。

カスタムするうちに、せっかくだからあーしたい、こーしたいが必ずでて来ますから、必ず予算はオーバーします。でも、このぐらい、と目安があるだけで、後々もめることもなくなりますね。で、いざやりますか、となったら手付けを収めてお願いするのですが、ここで大判振る舞いで全額納めるのはおススメしません。もちろんショップのやり方はそれぞれなので、従うべきです。が、カスタムは時間がかかるもの。待つ側、待たせる側、それぞれの事情でトラブった話は後を絶ちません。そういうワタシもバーチャルと呼ばれたオトコですから。もちろんポケットマネーで気軽に払える方なら良いですが、ギリギリでやりくりする庶民には大問題です。今回も予算オーバーが想像できたので、完成が見えて全額がハッキリした時点でローンを組ませてもらいました。そのほうが安心ですよね。

さて、使うパーツが揃ってきたところで、いざ製作であります。まずはフレームと足回り、そしてパワーユニットのフィッティングを見るところからはじめるそうです。フレームが出来ました！と連絡を受け、ショップに駆けつけると、試しにとベースの外装が載ったローリングシャシーの状態でした。ほとんど出来上がっているんじゃないですか？？？

～いのです。カスタムはイバラの道。とシロウトが思ってしまうのはあまセレクテッドの苦労はここから始まるのでありました。と、いうわけで今月はおさわりだけよのここまで。ほとんど庶民の経済事情のハナシでしたが、来月もお楽しみにぃ～。

外装パーツはたったの2点。あ、あとオイルタンクか。プレスあとが角ばっていたり、どちらも全く美しくありません

24W x 3L = 72(53)

16W x 16L = 256(247)

ホイールはすでにレトロなデザインではありますが、無骨さがどーしても捨てられなくてPMのガッサーを選択。フォークに合わせてポリッシュ仕上げであります

19W x 4L = 76(73)

「オイルタンクはバレル型にしようと思うんですけど…」と西岡さんからの提案。跨ってみてセオリー通りにエンジンのすぐ後ろにバレルを持ってくると……

19W x 4L = 76(71)

足の短いワタシにはバレルがモモが当たっちゃうことが発覚。容量を確保して電装も収めて、な部分なうえに熱くもなるので、対策を考えることに。オーナーに合わせたつくりはこんなところからはじまっているのです

34W x 3L = 102(98)

ヨーロッパの聞いたことないメーカーまで問いあわせをいろいろしてもらって、フォークを決めるまであれでもないこれでもないと3か月近くかかりました。結局、品質と性能優先でセリアーニ×ストーツを選択。特注のポリッシュ仕上げなのであります

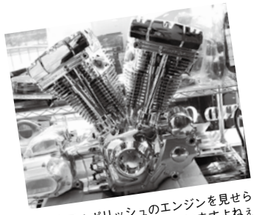
11W x 11L = 121(114)

ベースになるソフテイル。下の写真と比べるとフレームに美学を求めた理由が一目瞭然であります

20W x 3L = 60(44)

ローリング状態ですでに完成像がなんとなく見えます。フレームありき、というのが分かりますね

20W x 3L = 60(44)


こんなフルポリッシュのエンジンを見せられたら誰でも欲しくなっちゃいますよねぇ

19W x 2L = 38(38)

月刊
SELEXILE
セレグザイル

主な登場人物

シャチョー
代表の西岡さん。元俳優で戦隊モノのリーダー役だったことも

8W x 4L = 32(28)

ひゆう
東京店マネージャー。同じく元俳優で無類のアイアンマン好き

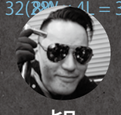
8W x 4L = 32(28)

タイキ
チーフメカニック。ハーレー以上にラジコンの走りにこだわる

8W x 4L = 32(28)

タツ
チーフメカニック。チョッパー乗りと思えぬほどマジメな好青年

8W x 4L = 32(29)


ヒロ
メカニック。最近散髪を命じられエグザイルに似てることが発覚

8W x 4L = 32(29)

おっ西岡さんから写メだ。

隠れキャラがいますね……。
そーなんです。カスタムには欠かせません!